

2022年1月5日

## ゆっくりすべり（SSE）の地震モーメント推定の修正について

ゆっくりすべり（SSE）の推定において、地震モーメント計算に使用するすべり量の取り扱い方向の統一及び、すべり量から地震モーメントを計算するプログラムの不具合修正を行いました。これに伴い、過去に公表した南海トラフにおけるゆっくりすべり（SSE）に関する資料の一部において、モーメント・マグニチュード（ $M_w$ ）の数値に影響がありました。

それぞれの修正に関する詳細及び過去の公表資料において影響する地区と量については、別紙1及び別紙2をご参照ください。

1. 地震モーメント計算に使用するすべり量の投影計算の影響について（別紙1）
2. すべり量から地震モーメントを計算する処理の修正について（別紙2）

（問い合わせ先）

〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番

国土交通省 国土地理院 地理地殻活動研究センター

地殻変動研究室長 宗包 浩志 TEL 029-864-6925（直通）



## 地震モーメント計算に使用するすべり量の投影計算の影響について

過去に公表した南海トラフにおけるゆっくりすべり（SSE）に関する資料の一部において、地震モーメントの算出に用いるすべり量として、水平面上に投影した値を使用しております。この場合、プレート境界面に沿うすべり量を使用したものに比べてわずかに小さな値となるため、第 232 回及び会報 107 巻（2022 年 3 月刊行予定）以降に公表している資料では、全てプレート境界面に沿うすべり量を使用した値に統一しました。

水平投影したすべり量が使われていた地区及び地震予知連絡会の開催回、会報等は下表のとおりです。各地区において、プレート境界面に沿うすべり量と水平投影したすべり量の差を、モーメント・マグニチュード（Mw）の差に換算した値を表に示しています。

Mw の差の大きさは、最も影響の大きな日向灘南部地区において 0.05 程度であり、小数点以下 1 桁に四捨五入した値が変わりうる程度となります。表に示した地区及び開催回、会報の Mw を、第 232 回及び会報 107 巻（2022 年 3 月刊行予定）以降の Mw の値と比較する場合には、この点にご留意ください。

地区	地震予知連絡会		Mw 差 (プレート境界面-水平面)
	開催回	会報	
<b>(1) 長期的 SSE</b>			
志摩半島	第 227 回～第 229 回	第 104 巻、第 105 巻	0.00
四国中部	第 228 回～第 231 回	第 105 巻、第 106 巻	0.00
日向灘南部	第 230 回～第 231 回	第 106 巻	0.05
<b>(2) 短期的 SSE</b>			
四国中部・西部	第 225 回	第 103 巻	0.01
四国東部			0.00
紀伊半島北部	第 226 回	第 104 巻	0.01
四国西部			0.00
四国西部			0.00
紀伊半島北部～中部	第 227 回		0.02
紀伊半島北部	第 228 回	第 105 巻	0.01
四国西部			0.00
紀伊半島北部	第 229 回、第 230 回	第 105 巻、第 106 巻	0.01
四国西部	第 230 回	第 106 巻	0.00

## すべり量から地震モーメントを計算する処理の修正について

過去に公表した南海トラフにおけるゆっくりすべり（SSE）に関する資料の一部において、すべり量から地震モーメントを計算するプログラムの不具合があり、モーメント・マグニチュード（Mw）の推定結果に最大 0.15 の誤差が生じていることがわかりました。影響があるのはゆっくりすべり（SSE）の推定においてすべり角を固定した場合で、該当する地区及び地震予知連絡会の開催回、会報等は下表のとおりです。

地区	地震予知連絡会		Mw 差 (修正後－修正前)
	開催回	会報	
<b>(1) 長期的 SSE</b>			
志摩半島	第 227 回～第 229 回	第 104 巻、第 105 巻	0.05
四国中部	第 228 回～第 232 回	第 105 巻、第 106 巻	0.06
日向灘南部	第 230 回～第 232 回	第 106 巻	0.05
<b>(2) 短期的 SSE</b>			
四国中部・西部	第 225 回	第 103 巻	0.06
四国東部			0.12
紀伊半島北部	第 226 回	第 104 巻	0.05
四国西部			-0.12
四国西部			0.15
紀伊半島北部～中部	第 227 回		0.06
紀伊半島北部	第 228 回	第 105 巻	0.06
四国西部			0.06
紀伊半島北部	第 229 回、第 230 回	第 105 巻、第 106 巻	0.06
四国西部	第 230 回	第 106 巻	0.06

これらの地区では、各開催回及び会報における Mw 換算値が、表中に示す [Mw 差（修正後－修正前）] の分だけ異なる値に評価されていることに注意が必要です。また、長期的 SSE の推定では、Mw6.0 以上について Mw 差は概ね一定です。

なお、四国中部及び日向灘南部の長期的 SSE について、第 233 回及び会報 107 巻（2022 年 3 月刊行予定）以降に公表している資料では、不具合を修正したプログラムを使用した結果を掲載しています。